

市長と共に語る 地区懇談会

今回は、北浦地区と玉造地区の懇談会の主な内容について紹介します。

北浦地区

天王崎地区の再整備について

問 天王崎の再整備だけでなく、ヨットやバスポートなどへの対応や、艇庫など、交流拠点となる施設の設置を要望します。

答 現在、市が湖岸を自由に使える状



再整備構想が推進される天王崎地区

況になっていません。貴重なご意見として、協議検討し、国土交通省へ要望していきたいと思えます。

学校等の適正配置について

問 小学校の再編は、旧三町の枠にとられず検討することですが、現在、枠にとられない通学等は行われているのですか。

答 現在は学区の指定はあります。しかし、事情のある方には、申し出により、教育委員会で学区外通学の許可をしています。

問 複式学級があるほど児童数が少ないのなら、行方市は財政難であるので、経費がかからないよう、潮来市のように学校を統合してはどうですか。

答 市内で複式学級を編制している学級は、3校あります。学校数が少ないほうが経費はかかりませんが、集団での生活等は、子どもにとっても大事なことです。財政難であっても、児童生徒を基本に考えていきます。

現在、策定委員を公募しており、市民と協働で適正配置等の計画を策定してまいります。



企業誘致について

問 北浦複合団地では、優遇措置をして企業を誘致するのですから、優遇の交換条件に、従業員の方は行方市に住所をおくようできないでしょうか。そうすれば市の人口は増え、税収も上がると思えます。

答 北浦複合団地内には、居住地区の計画があります。行方市に住んでもらえるよう、誘致交渉の中で話していき、努力してまいります。

行政改革の取り組みについて

問 企業では、合併すると早期退職制度を導入するところがありますが、市は、人件費の削減についてどのように考えています。

答 定年退職だけでなく、勧奨退職を実施しています。しかし採用もしていかなければ、職員の年齢の硬直化が

ますので、退職者数の3割は新規採用をしていきます。
また、昨年は白帆荘を廃止し、麻生給食センターを民間委託し、行財政のスリム化に取り組み、経常経費の削減を目指しています。

玉造地区

行政改革の取り組みについて

問 老人いこいの家が平成19年度で廃止されると聞きました。市の高齢化が進んでいて廃止とは、福祉の切り捨てではないのでしょうか。

答 老朽化と利用率の減少から麻生の白帆荘を廃止しました。また、老人いこいの家も築30年を経過し、改修の効果があるかどうかを検証しています。

年間の維持管理費が1,400万円に対し、収入は200万円、毎年1,200万円の赤字が出ています。人件費も含めると、3,500万円、4,000万円の赤字となります。

また、利用者は17年度8,000人、18年度は7,000人と減少しており、利用者も固定化しています。

廃止することは、福祉を切り捨てるのではなく、廃止して浮いた経費を使い、カラオケの利用者には別の場所の確保や、入浴利用者には送迎手段を確保といった、新たなサービスの提供を考えています。

財政状況について

問 財政力指数0・41を上げるための得策はありますか。

答 財政力指数を上げるには、税収増が不可欠です。そのため、北浦複合団地等への企業誘致を積極的に取り組み、税収増を図るとともに、誘致した企業に働く従業員の方々が行方市に定住していただくための施策も必要となります。

新庁舎建設について

問 三つの旧庁舎は、いつ頃建てたのですか。新庁舎はお金がかかるので、もう少し我慢して、10年くらい先に建ててはどうでしょう。

答 麻生庁舎は昭和40年に建てられ、建て増しが平成3年です。玉造庁舎は



昭和55年、北浦庁舎は昭和54年です。

既存の庁舎をそのまま使用していくには、多額の維持補修費がかかります。また、昭和56年以前に建てられた庁舎は、現在の耐震の法律にあっていません。万が一の災害時は、耐震強度の満たない庁舎に、災害対策本部を設置することになります。

8年後が合併特例債を活用できる期限であるため、その後の新庁舎建設では財源の確保が非常に困難になります。

問 合併特例債は有利な借金といいますが、何が有利なのですか。

答 合併特例債は、合併した市町村にだけ認められている起債、つまり借金です。起債の95%は借入ができ、そのうち75%は交付税で国がまかなってくれるので、借金ではありながらも、60%以上の補助が出たのと同じ結果になります。

ります。通常、補助事業は二分の一程度です。

問 新庁舎は、できるだけ低コストで考えてほしいのですが。

答 新庁舎建設検討委員会では、新しい一つの庁舎を建てる案もあれば、一つの庁舎を拠点に建て増しをする案もあります。低コストで、行方市にとって一番よいあり方をさらに協議して、市民のみなさんにもお知らせしていきます。

公共交通システムについて

問 鹿島鉄道が廃止となったため、車を持たない人や、高齢者、通学者は困っています。バスを回すなどの検討はされていますか。

答 昨年、なめがた地域総合病院来院

者を対象に調査を実施した結果でも、新たな公共交通を考えてほしいとの回答が多く出ました。

現在、公共交通システム検討委員会を立ち上げ、20年度以降の導入を目指して協議しているところです。

市内の高校の通学状況は、麻生高校ではスクールバスを5路線運行、玉造工業高校では約7割がバイク通学です。

問 雨の日など、高齢の方は大変なので、バスの待合場所を設置してください。

答 バスの待合所の要望は、外にも事務局にとどいています。お金がかかることなので、すぐにはお応えできませんが、待合所の建設も含め、交通のあり方を検討してまいります。



地区懇談会 出席者人数

月日	地区名	人数
6月21日	太田	9人
6月22日	麻生	42人
6月25日	大和	36人
6月29日	小高	16人
7月2日	行方	21人
7月4日	津澄	72人
7月5日	要	23人
7月6日	武田	18人
7月10日	立花	31人
7月11日	現原	24人
7月24日	玉造	62人
7月25日	手賀	42人
7月26日	玉川	56人
合計		452人